

使徒の働き1章4-8節 「聖霊の力」

1A 聖霊によるバプテスマ 4-5

1B 父の約束 4

2B 浸される恵み 5

2A イエスの証人になる力 8

1B 上から臨む力

2B 地の果てまでの証人

本文

使徒の働き1章を開いてください。私たちの聖書通読の学びは、ついに使徒の働きに入ります。午後に1章を一節ずつ見ていきますが、今朝は、使徒の働き全体のテーマとなる、イエス様が弟子たちに与えられた、聖霊の約束です。4-5節と8節ですが、4節から8節までを全部読みます。「⁴使徒たちと一緒にいるとき、イエスは彼らにこう命じられた。「エルサレムを離れないで、わたしから聞いた父の約束を待ちなさい。⁵ヨハネは水でバプテスマを受けましたが、あなたがたは間もなく、聖霊によるバプテスマを受けられるからです。」⁶そこで使徒たちは、一緒に集まったとき、イエスに尋ねた。「主よ。イスラエルのために国を再興してくださるのは、この時なのですか。」⁷イエスは彼らに言われた。「いつとか、どんな時とかいうことは、あなたがたの知るところではありません。それは、父がご自分の権威をもって定めておられることです。⁸しかし、聖霊があなたがたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地の果てまで、わたしの証人となります。」」ここのイエス様の言葉が、どのようにして実現していくのか、それが使徒の働き全体の内容となります。

みなさんに、使徒の働き全体を一気に読んでみてくださいとお願いしていました。私自身は、途中でいろいろな用事が入ってしまって、断続的になってしまいましたが、なんとか二日の間に読み通しました。これまで福音書に慣れ親しんでいたのも、本当に驚きました。ヨハネの福音書でイエス様が約束されていたことを、見るような気分でした。「ヨハ 14:12 まことに、まことに、あなたがたに言います。わたしを信じる者は、わたしが行くわざを行い、さらに大きなわざを行います。わたしが父のもとに行くからです。」イエス様が行われたわざは、イエス様だけが行われていました。弟子たちも、その権能が与えられ、宣教旅行の中で悪霊を追い出し、病人を直したりしたとありましたが、一時的であり、限定されていて、多くが書かれていません。けれども、イエス様が天に昇られて、聖霊が臨まれた後の弟子たちは、主の行われたことを行っていき、それを、それぞれの弟子たちが行っていくので、一気に主のことばが広がり、世界にまで伝わっていく様子を見ることができます。主は、「ヨハ 16:7 わたしが去って行くことは、あなたがたの益になるのです。去って行かなければ、あなたがたのところに助け主はおいでになりません。でも、行けば、わたしがあなたが

たのところに助け主を遣わします。」と言われましたが、肉体の中で限定されていたイエス様の働きが、もうひとりの助け主である聖霊の働きによって、物理的な制約を受けず一気に広がっていくのです。

そして、この聖霊の約束を、そこにいた弟子たちだけでなく、私たちにも与えているということで。ペテロが言いました。「2:39 遠くにいるすべての人々に、すなわち、私たちの神である主が召される人ならだれにでも、与えられるのです。」聖霊の働きによって、初めて、私たちがキリスト者と呼ぶことができる、といっても過言ではないでしょう。それは、アンティオキアの教会で初めて、一般の人々が彼らを見て使い始めた言葉ですが、「小さなキリスト」のような意味です。キリストのように生きている、キリストの真似をしているというような意味合いです。単に語っているだけでなく、そのように生きているという意味です。では、中身に入っていきます。

1A 聖霊によるバプテスマ 4-5

1B 父の約束 4

4 使徒たちと一緒にいるとき、イエスは彼らにこう命じられた。「エルサレムを離れないで、わたしから聞いた父の約束を待ちなさい。」

イエス様が、よみがえられてから、ご自分を何度となく弟子たちの前に現わされました。私たちはヨハネの福音書の中で、三度、ご自身を現わしたことを読みましたが、もっと多く現れておられます。それが40日にも渡ったと3節にあります。そこで、主と使徒たちは、エルサレムの東にある、オリブ山のほうに移動しています。そこで、今の言葉を語られました。父の約束と言われている、聖霊の約束が与えられるまで、エルサレムを離れないで、待っていなさいと指示しておられます。

その父の約束とは何でしょうか？私たちは、ヨハネの福音書のおかげで、じっくりとその話を、イエス様が弟子たちに語られるところから見ました。「ヨハ 14:16-17 そしてわたしが父にお願いすると、父はもう一人の助け主をお与えくださり、その助け主がいつまでも、あなたがたとともにいるようにしてください。この方は真理の御霊です。世はこの方を見ることも知ることもないので、受け入れることができません。あなたがたは、この方を知っています。この方はあなたがたとともにおられ、また、あなたがたのうちにおられるようになるのです。」ヨハネ 14章を学んだ時に、もう一人の助け主とは、イエス様と同じ性質を持った助け主ということであり、聖霊が共におられるということは、主イエスご自身が共におられることであり、内におられるとは、イエス様が内におられることと同じだと話しました。父と子にある関係が、この方を信じる者に聖霊によって引き延ばされ、与えられるということです。

イエス様のこの約束は、すでに旧約時代の預言者を通して与えられていました。ペテロが、ユダ

ヤ人たちに説教をする時に引用する箇所ですが、ヨエル書 2 章 28-29 節です、「その後、わたしはすべての人にわたしの霊を注ぐ。あなたがたの息子や娘は預言し、老人は夢を見、青年は幻を見る。その日わたしは、男奴隷にも女奴隷にも、わたしの霊を注ぐ。」ここでの特徴は、「すべての人」です。年に関係なく、男女に関係なく、また身分にも関係なく、すべての人にわたしが霊を注ぐとされています。旧約の時代は、預言者など、特定の人々にだけ御霊の働きが与えられていました。モーセが、民を率いるという責任があまりにも重く、もう耐えきれないと主に嘆いた時に、主は、七十人の長老に、「あなたの上にある霊から一部を取って彼らの上に置く。」と言われました(民数 11:17)。霊を受けた人たちは預言をしましたが、モーセは、「主の民がみな、預言者となり、主が彼らの上にご自分の霊を与えられるとよいのに。(11:29)」

ですから、モーセに与えられたように、信じる者全てに与えられました。どうでしょうか、ここでイエスを信じている方々、どうか特別な人たちだけに与えられている特権だと思わないでください。ご自身を含めて、恵みによって与えられているのです。

2B 浸される恵み 5

⁵ ヨハネは水でバプテスマを受けましたが、あなたがたは間もなく、聖霊によるバプテスマを受けられるからです。

福音書はすべて、バプテスマのヨハネの宣教の働きから始まっていることを思い出してください。ヨハネが、イスラエルの人々に悔い改めを説いて、そのようにする人々にヨルダン川でバプテスマを授けていました。人々が、神が預言者を遣わされたと信じました。そして、それ以上に、この方はキリストではないか？とまで思ったのです。それでヨハネは言いました、「3:16-17 私は水であなたがたにバプテスマを授けています。しかし、私よりも力のある方が来られます。私はその方の履き物のひもを解く資格もありません。その方は聖霊と火で、あなたがたにバプテスマを授けられます。また手に箕を持って、ご自分の脱穀場を隅々まで掃ききよめ、麦を集めて倉に納められます。そして、殻を消えない火で焼き尽くされます。」

そもそも「バプテスマ」とは、どんな意味なのでしょう？他の日本語訳では、「洗礼」と訳されていますが、ちょっと語弊を呼ぶかもしれません。浸かるという感じを使った「浸礼」がありますが、これのほうがより近いです。ユダヤ人の中では、これはとても身近なものでした。「ミクベ」と呼ばれる浸礼槽がありました。神殿で礼拝する前などに入りますが、「自分が清められるために、すべてを洗い清めていただき、新たにされる。」という意味があります。階段で下がって、そこで自分の着ている服をそばにいる人に渡して、全裸になって中に入ります。頭のとっぺんまで全身浸かります。それは、あたかも母親の胎内にいる胎児の姿です。そしてそこから上がってきます。このことで、「新たに生まれる」ことを体現していたのです。イエスがニコデモに、「ヨハ 3:5 人は、水と御霊によって生まれなければ、神の国に入ることはできません。」と言われたのは、このような儀式があっ

たからです。水の中に完全に、全身が浸かることにより、自分がそれと一体化するというような意味合いがあります。

バプテスマのヨハネが行っていたのは、「悔い改めのバプテスマ」です。ヨハネが、イスラエルの民に悔い改めを説きました。そして、その悔い改めと一体化するために、水の中に全身が入ります。ちょっと反省するとか、そういった軽いノリではなく、すっかり神に立ち返ること、罪を悲しみ、思い直して、神に立ち返ることを意味します。ヨハネが言った、「私は水であなたがたにバプテスマを授けています。」と言った所以です。

けれども、「しかし、私よりも力のある方が来られます。」と続けて言っています。そうです、悔い改めたとっても、自分の力ではどうすることもできない、また古い行いに戻ってしまうかもしれません。バプテスマのヨハネをしても、人々を変える力は持っていませんでした。しかし、彼よりも力のある方が来られるのです。この方は聖霊をもってして、私たちにバプテスマを授けるということです。ここでは、水はありません。聖霊ご自身がその媒体です。自分自身が、聖霊ご自身の中に浸かり、浸(ひた)り、全身がこの方に満たされます。それによって、自分自身からキリストご自身が現れて、イエスを証しする力が与えられるということです。これが、使徒の働きが、イエス様の働きの延長であり、イエス様が行われた以上に、神の国の現れが広範囲で起こった理由であります。

ちょっとたとえが変ですが、ワイン、ぶどう酒が好きな人がいるとします。貯蔵庫に、ワインのボトルが並んでいます。すごいなあ〜と思っています。ある時にとんでもないことが起こりました。ワインが、なぜか水道管から溢れ出て来ています。どう見ても、良質のワインです。ついに、お風呂も、また庭にあるプールをも、ワインでいっぱいになりました。これまで、大切に保存していて、いつ無くなるか分からないワインが、なんと自分がその中に浸かってしまった、という感じです。

これを、ヨハネの福音書では、事実、荒野に水がほとばしり出るイザヤ書にある約束によって、イエス様が、「生ける水の川が出てくる」約束をなされたところで書かれています。「ヨハ 7:38 わたしを信じる者は、聖書が言っているとおり、その人の心の奥底(直訳:腹)から、生ける水の川が流れ出るようになります。」ヨハネはこれを、御霊のことであると解釈を付けています。ここでの「流れ出る」という言葉は、水鉄砲であることはなんととなく、これまでも説明してきました。ちよろちよろ流れる水のことではありません。荒野において、雨が降ると、鉄砲水となります。急激に、一気に水が流れ出るのです。

つまり、聖霊のバプテスマは、聖霊が内に住んでくださる以上のことです。弟子たちはすでに、イエス様から息を吹きかけられて、「ヨハ 20:22 聖霊を受けなさい。」と言われました。彼らが神によって新たに生まれ、神の子どもとなるために必要な、聖霊による新たな誕生は、彼らは既に体験していました。主がすでに、彼らに真理について知る、聖霊の働きを与えておられました。ルカ

24章45節には、復活したイエス様が聖書についての理解を与えるために、「聖霊を悟らせるために彼らの心を開いて」とあります。けれども、それでも「24:49 わたしの父が約束されたものをあなたがたに送ります。あなたがたは、いと高き所から力を着せられるまでは、都にとどまっていなさい。」とされているのです。

それはあたかも、コップの水のようです。水がコップに注がれて、水はコップの中に満ちます。いけれども、さらに水が注がれたら溢れ出ます。聖霊が内で住んでくださり、自分が神の宮となってくださり、自分がキリストにある神の栄光を見ることができるだけでなく、自分から溢れ出て、他の人々が、外部が、自分を見て、キリストを見るという、外に向けた働きをしてくださるのです。これが、証しであり、聖霊は証しのための力を下さるのです。

そしてもう一つ、前回のペテロに対するイエス様の言葉を思い出してください。「ヨハ 21:18 まことに、まことに、あなたに言います。あなたは若いときには、自分で帯をして、自分の望むところを歩きました。しかし年をとると、あなたは両手を伸ばし、ほかの人があなたに帯をして、望まないところに連れて行きます。」ある人がこんなたとえをしていました。ガソリンの入っていない車で運転しようとしているのは、聖霊のない生活をもって、神の義に到達しようとしている人です。けれども、聖霊の働きによって、ガソリンが入れられ、自分の運転ができるようになったというのが、聖霊が内に住んでくださっているクリスチャンです。しかし、その運転席は依然として自分なんですね。ここで、イエスご自身に運転してもらおうというのが、聖霊によるバプテスマだということ。つまり、聖霊は単なる自分の助け手ではなく、自分を導き、自分に主導権を持っておられる方であり、自分は、ただ主のなされることに自分をゆだね、任せ、従わせることだけなのだ、ということです。

2A イエスの証人になる力 8

そして、6-7節は飛ばして、8節を読んでみましょう。

1B 上から臨む力

^{8a}しかし、聖霊があなたがたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けます。

聖霊が上から臨むとのこと。先ほど、ルカ24章にある「いと高き所から力を着せられる」という言葉といっしょです。上から、いと高きところから聖霊が臨まれるということです。私たちはこれまでヨハネの福音書で見えてきたように、世に対する聖霊の働きは、共にいて過ちを明らかにする働きです。そして、十字架につけられたイエスが明らかにされ、この方を信じ、受け入れるのであれば、「うちにおられる」働きに変わります。けれども、それ以上に、「上に臨まれる」働きがあるので、これが、イエス様の証しをするための力であり、外側に働きかける力です。

次には、弟子たちが地の果てにまで、ご自分の証人となるという約束があります。ここには、裏

切ったイスカリオテのユダを除く、11 人の使徒たちがいます。それから、周りに弟子たちがいたことでしょう。彼らだけで、地の果てにまでイエスの証人となるという、人間業ではない、途方もないことをすることが命じられているのです。「ルカ 24:47 その名によって、罪の赦しを得させる悔い改めが、あらゆる国の人々に宣べ伝えられる。」と主は言われました。あらゆる国の人々であります。この時に、ユダヤ人にしかアブラハムの祝福、神の国に入る祝福はないと考えられていました。そして、そのユダヤ人に対しても、恐れて戸を固く閉じていた弟子たちです。途方もなく大きな使命を帯びているのです。ここで、「自分たちにはできない」としてはいけないことが、「上に臨む」という言葉に表れているのです。大事なものは信仰による従順なのです。主に従う心があれば、残りは主が行ってくださいます。主に命じられたことに聞き従えば、主がご自分の働きを、自分を通して行ってくださいます。

そして、「**力を受けます**」の力は、ギリシア語でデュナミスです。英語のダイナマイトの元々の言葉です。イエス様が、ヤイロの娘を助けに行こうとされた時に、群衆が押し寄せてきていて、その中に長血を患う女がやってきて、イエス様の衣に触れました。それで血の源がすぐに乾いて、病気が癒されましたが、「マルコ 5:30 イエスも、自分のうちから力が出て行ったことにすぐ気がつき」とあります。この力も、デュナミスです。イエスにある力が、この力であります。

ですから、何度となく使徒たちは、自分たちの言葉だけではない、宣教は、力と御霊によるのだと説明しています。使徒パウロは、こう言いました。「I コリ 2:4 そして、私のことばと私の宣教は、説得力のある知恵のことばによるものではなく、御霊と御力の現れによるものでした。」ローマ人への手紙では、こう言っています。「15:18-19 私は、異邦人を従順にするため、キリストが私を用いて成し遂げてくださったこと以外に、何かをあえて話そうとは思いません。キリストは、ことばと行いにより、また、しるしと不思議を行う力と、神の御霊の力によって、それらを成し遂げてくださいました。こうして、私はエルサレムから始めて、イルリコに至るまでを巡り、キリストの福音をくまなく伝えました。」そして、テサロニケ人にはこう語りました。「I テサ 1:5 私たちの福音は、ことばだけでなく、力と聖霊と強い確信を伴って、あなたがたの間に届いたからです。」

2B 地の果てまでの証人

8b **そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地の果てまで、わたしの証人となります。**

ここが、使徒の働き全体のアウトラインになっているとさえ言えます。2 章に、エルサレムで祈っている弟子たちに聖霊が降るところを読みます。弟子たちは主のことばを語り、エルサレムをイエスの教えでいっぱいになりました。ところが、迫害が起こります。ステパノが殉教します。それで散らされるのですが、それによって、他のユダヤの地域、またサマリアの地域へと福音を伝えていきます。それが 8 章から始まります。ピリポがサマリアで宣教を行います。そして、迫害していたパウロがイエス様に捉えられます。ペテロが、コルネリウスのところに導かれて異邦人への宣教の戸が

開かれます。アンティオキアに、異邦人の信者や指導者もいる教会が建てられます。そこから、パウロとバルナバが遣わされます。13章です。そして小アジア、次にギリシア地方に向かう宣教へと導かれます。ついに最後は、ローマにパウロがいて、使徒の働きが終わります。つまり、エルサレムから見れば、地の果てにまで届いたのです。

もう一度思い出せば、エルサレムにいた十一人の使徒たちから始まりました。後に、パウロは、「24:5この男はまるで疫病のような人間で」と告発されますが、そうですね、福音の伝播でいけば、まるで疫病のようなものかもしれません。今のコロナの流行を見れば、武漢で発生したウイルスが世界に拡散しました。国々をひっくり返しています。同じように福音は、全世界に伝わり、国々をひっくり返す力があります。

そして、「わたしの証人となります」とあります。ここが、「証言をします」となっていないことに注目してください。証人となる、と言われていています。ギリシア語は、「マルトユス」であり、英語で殉教者を martyr といいます。マルトユスから来ています。つまり、主のゆえに死ぬ覚悟が、証しをするところに含まれています。単に言葉で証しをするのではなく、生きている姿が証しとなっているということです。イエスを主としている生き方が、証しになっているということです。言葉を語らずとも、証しになっていることは、数多くありますね。ラザロはそうでした、彼が生きているだけで強烈な証しであり、人々が多く信じて行ったのです。

聖霊の力は今、皆さん信じる者一人一人に与えられています。どうか求めてください、求めて信じて、受けてください。最後に、週報に第一面にある言葉を読みたいと思います。「ゼカ 4:6『権力によらず、能力によらず、わたしの霊によって』と万軍の【主】は言われる。」